

令和4年度事業報告

報告にあたって

公益財団法人農村更生協会（以下「協会」という。）は、八ヶ岳中央農業実践大学校（以下「大学校」という。）において、農業の担い手及び農村の指導者の養成、農業技術・経営の研修、農林業体験学習等に関する事業を行っている。

大学校は、令和4年度（以下「4年度」という。）は、4月に入学生14名（専修科1年生8名、研究科生6名）を迎え入れ、3月に卒業生12名（専修科2年生8名、研究科生4名）を送り出すことができた。卒業生は、2年間（専修科生）あるいは1年間（研究科生）の実践教育によって農業を学んだ者たちで、各地で次代の農業や地域の担い手として活躍してくれるものと期待している。

協会・大学校の経営については、4年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響、人員不足等により事業収入が昨年比べて減少した。この間、(株)ちとせ研究所による野菜買取の連携等による収入増を図ったが、年度末の正味財産は前年度より更に減少し、大学校が引き続きその使命を果たしていくためには経営財務状況の立て直しが喫緊の課題となっている。

このため、大学校の事業が持続可能となるように、役職員一丸となってこれまでに増して、経営再建に取り組むことを認識し、各事業について収支改善目標を定めその確実な達成に努力するとともに、周辺地域・行政の理解の下、事業の効率的展開のため、可能な限り速やかに協力企業との連携を進める必要がある。

以下、4年度の事業実施、管理運営等について報告する。

1 担い手の養成

(1) 教育方針

次の項目による実践教育により、担い手の養成に努めた。

- オールラウンド学習（1年次前期）とチーム専攻学習（2年次）
- 地域現状分析・新規就農シミュレーション（1年次後期）
- プロジェクト研究（2年次）
- 卒業論文

(2) 学生数

4年度の学生数は、次のとおり。

研究科生 6名（令和3年度 1名）

専修科2年生 12名（令和3年度 13名）

専修科1年生 8名（令和3年度 13名）

(3) プロジェクト研究発表

関東ブロック大会と全国大会は、コロナ禍のためオンライン開催。関東ブロック大会には当校の全学生が参加し、プロジェクト発表2名および意見発表1名の合計3名が発表した。意見発表の部では発表者が準優勝し、その後全国大会へ参加して特別賞を受賞した。

(4) 卒業生の進路

卒業生12名のうち、7名が農業関係に就職した（自営0名、法人就職7名）。地域は、長野県6名（うち1名は諏訪地域）、岐阜県1名である。その他、進路未定が5名である。

2 農林業体験・研修

農林体験学習は前年度の1.6倍近くまで回復したが、コロナ禍の影響により他の事業は前年度に引き続き低迷あるいは実績なしとなった。

(1) 農林体験学習 8,412名（令和3年度 5,288名）

(2) 一般体験学習 実績なし

(3) 各種研修・講習

①夏季短期講習会 19名、うち3名が専修科に入学
(令和3年度 10名、うち3名が専修科に入学)

②日本政策金融公庫新任職員研修 実績なし（令和3年度 実績なし）

③諏訪地域教員新任者研修 40名（令和3年度 38名）

④学生に対する農業機械実習 0名（令和3年度 4名）

3 農場経営

大学校の農場は、農業の実践教育の場であるとともに、実践教育によって農畜産物を生産する場でもある。また、農業の六次化に対応し、牛乳乳製品等の加工、農畜産物・加工品の販売も行っている。これらの生産と販売については、学生数と職員数の不足、気象要因の不安定さ、コロナ禍による来客数の減少などにより多くの部門で減少した一年となった。

(1) 農産園芸

○野菜部門では、土壌水分機器の共同研究等を行い、学生の研究テーマとし

て活用した。生産量は、人員不足と7月の長雨と8月の猛暑により基幹品目が減収となり、特にブロッコリーは、長雨による定植の遅れに加え、適期の防除を逸したことから収量は計画の4割減となった。ハロウィンカボチャは、コロナの影響で、大手企業によるイベント縮小で出荷量も減少した。一方、スイートコーンは順調に生育したが、突風による倒伏のため一部被害が出た。また、今年新たに（株）ちとせ研究所による野菜買取が行われた。野菜全体としての収益は昨年度の1.5倍となり、収支も赤字ではあるが幾分改善した。

○花卉部門では、職員が野菜と兼務となり、管理業務に支障をきたす場面があった。春と秋のパンジー、ビオラは、コロナ禍でイベントがほとんどなくなり、また、冬のシクラメンも昨年ほどの巣ごもり需要がなく、販売に苦戦した。花卉収益は前年度比46%に留まり、収支も悪化した。

(2) 畜産

○酪農部門では、前年度比で搾乳頭数が88% (78.9頭)、乳量が89.2% (657.9トン)であった。牧草収量（ロールペイルサイレージ）は前年から37個減（691個）となり、デントコーンはほぼ同じ（2tトラック229台）となった。収益は昨年とほぼ同様であったが、収支は若干悪化した。

○養鶏部門では、令和4年3月にボリスブラウン 900羽♀50羽♂ アローカナ雑種 300羽♀を導入した。資金の調達の関係で導入予定が1か月遅れた。産卵率はボリスブラウン85%以上（破卵を含む）を維持した。アローカナは8月から飼料を変更したところ65%から80%以上になった。餌の変更の影響かエンリッチドゲージの効果かは不明である。農業生産法人黒富士農場との連携平飼養鶏では、廃・入雛を3回実施した。産卵総個数は1,122千個であり、産卵率は標準の93-100%であった。養鶏全体の収益は昨年の7%増となったが収支は若干悪化した。

○養豚部門では、昨年度導入40頭 出荷38頭となった。2頭死亡したが、1頭は暑さのためであり、遮熱対策を追加で実施した。もう1頭は肺炎の重症化と寄生虫が考えられた。駆虫薬の投与が早かったが、通常より長く肥育して出荷するため、追加も含めて3回の投与が必要であった。また、前年度少なかった肺炎が多かったが導入元からの感染が考えられた。教育のための部門であるため収支はマイナスであった。

(3) 加工所

○加工所は、生産量が直売所での販売動向に依存していることや施設設備の

老朽化により、生産の効率化を図ることが難しい。そうしたなかで、本年度は特に、設備の老朽化によりチーズ熟成環境が保てずに廃棄処分となったものがあつたこと、施設設備の老朽化による修理費の増加や原料費・資材費の高騰による経費の増加などにより、収支は悪化した。一方で、チーズを柱とした新商品の開発など、状況を改善するための取組を始めた。

(4) 直売所

○直売所来店者数は、コロナ禍の影響が薄れてきたものの下げ止まりとならず、減少が続いた。売上げについては、大学校の野菜、卵、放牧豚等の販売、外部仕入れによる販売につとめたものの減少となった。一方で、野菜と放牧豚の加工品の買取を中止したこと、加工所出荷乳製品の仕入れと販売の経理を明確化したことなどにより、収支は改善した。また、5月連休と7～9月にはソフトクリームを販売し、収益の増加につながった。

4 フォーラムの実施等

(1) 八ヶ岳フォーラムの実施

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した。

(2) 農林技術アカデミーの実施

以下のテーマで開催し、大学校の学生、教職員、外部からの受講者など約40～50名が参加した。すべて対面とオンラインの併用で行った。

- ・第13回 2022年6月18日 東北大学名誉教授 鈴木啓一氏
テーマ：豚肉のおいしさの科学
- ・第14回 2022年8月20日 岩手大学名誉教授 岡田啓司氏
テーマ：乳牛の健康を科学する
- ・第15回 2022年12月14日 信州大学農学部教授 松島憲一氏
テーマ：野菜園芸における古い品種と新しい品種
- ・第16回 2023年2月18日 信州大学農学部准教授 齋藤勝晴氏
テーマ：気候変動と農業の関係を考える

5 理事会・評議員会等

(1) 理事会の開催

- ・第1回理事会 令和4年4月22日（金）（決議があつたと見なされた日）
「基本財産に対する根抵当権の設定」について、理事全員の書面による同意

が得られ承認。

- ・ 第2回理事会 令和4年6月8日(水) 於：日本農業研究所
「令和3年度事業報告及び決算」、「令和4年度第2回評議員会の招集」について審議。出席理事全員の一致をもって原案のとおり承認。その他、評議員会に諮る定款の変更、職務の執行状況について報告。
- ・ 第3回理事会 令和4年6月24日(金)(決議があったと見なされた日)
「会長(代表理事)及び副会長(代表理事)の選定」について、理事全員の書面による同意が得られ承認。
- ・ 第4回理事会 令和4年9月27日(火) 於：東京大学弥生講堂会議室
「資金調達の見込み」、「令和4年度第4回評議員会の招集」について審議。出席理事全員の一致をもって原案のとおり承認。その他、株式会社ちとせ研究所との連携について報告。
- ・ 第5回理事会 令和4年12月23日(金)(決議があったと見なされた日)
「基本財産に対する根抵当権の設定」について、理事全員の書面による同意が得られ承認。
- ・ 第6回理事会 令和5年3月6日(月)(決議があったと見なされた日)
「基本財産に対する根抵当権の設定」、「基本財産の処分」について、理事全員の書面による同意が得られ承認。
- ・ 第7回理事会 令和5年3月7日(火) 於：東京大学フードサイエンス棟
会議室
「令和5年度事業計画、収支予算並びに資金調達及び設備投資の見込み」、
「職員給与規程の改正」、「令和4年度第7回評議員会の招集」について
審議。出席理事全員の一致をもって原案のとおり承認。その他、評議員会
に諮る定款の変更、譲渡担保設定契約の変更、令和5-7年度経営再建計画
等について報告。

(2) 評議員会の開催

- ・ 第1回評議員会 令和4年4月22日(金)(決議があったと見なされた日)
「基本財産に対する根抵当権の設定」について、評議員全員の書面による同意が得られ承認。
- ・ 第2回評議員会 令和4年6月24日(金) 於：日本農業研究所
「令和3年度事業報告及び決算」、「理事及び監事の選任」、「役員及び評議員の報酬等支給の基準並びに費用に関する規程の変更」、「会長及び常勤役員

の報酬額」、「定款の変更」について審議。出席評議員（全評議員数12名のうち9名）全員の一致をもって原案のとおり承認。

- ・ 第3回評議員会 令和4年8月12日（金）（決議があったと見なされた日）
「評議員の選任」について、評議員全員の書面による同意が得られ承認。
- ・ 第4回評議員会 令和4年10月4日（火） 於：東京大学弥生講堂会議室
「資金調達の見込み」について審議。出席評議員全員の一致をもって原案のとおり承認。その他、株式会社ちとせ研究所との連携について報告。
- ・ 第5回評議員会 令和4年12月23日（金）（決議があったと見なされた日）
「基本財産に対する根抵当権の設定」について、評議員全員の書面による同意が得られ承認。
- ・ 第6回評議員会 令和5年3月6日（月）（決議があったと見なされた日）
「基本財産に対する根抵当権の設定」について、評議員全員の書面による同意が得られ承認。
- ・ 第7回評議員会 令和5年3月24日（金） 於：東京大学フードサイエンス棟会議室
「令和5年度事業計画、収支予算並びに資金調達及び設備投資の見込み」、「定款の変更」について審議し、出席評議員（全評議員数12名のうち9名）全員の一致をもって原案のとおり承認。また、「基本財産の処分」について審議し、定款に定める全評議員数（12名）の3分の2以上の賛成（8名）をもって原案のとおり承認。その他、令和5-7年度経営再建計画等、譲渡担保設定契約の変更について報告。

（3）常任理事会の開催

一昨年度から必要に応じての開催となったが、昨年度は開催しなかった。

（4）経営管理委員会の開催

大学校の経営及び管理上の諸問題を検討、評価し、学校運営に関して様々な改善を図るため、以下のとおり開催した。

令和4年4月9日（土）、5月13日（金）、6月10日（金）、7月8日（金）、7月29日（金）、8月12日（金）、9月9日（金）、10月7日（金）

（5）資金管理委員会

大学校における適切な資金管理を行うために資金管理委員会を組織し、以下のとおり開催した。

令和4年4月9日(土)、5月13日(金)、6月17日(金)、7月8日(金)、8月12日(金)、9月9日(金)、10月7日(金)

(6) 経営再建委員会

令和4年10月から経営管理委員会と資金管理委員会の機能を統合して、諏訪信用金庫、JA及び(株)ちとせ研究所が加わった経営再建委員会を組織し、令和4年度の資金繰り、令和5年以降の経営再建計画の策定等に関する検討を行うこととし、以下のとおり開催した。

令和4年10月14日(金)、10月21日(金)、11月18日(金)、12月16日(金)、令和5年1月13日(金)

6 役員等の異動

(1) 会長

令和4年6月24日 就任 太田豊彦

(2) 理事

令和4年6月24日 就任 小栗邦夫
小山信温
皆川芳嗣
八代徹也
退任 岩元睦夫
高木賢
田家邦明
豊島至

(3) 評議員

令和4年6月24日 退任 小栗邦夫
令和4年6月25日 退任 松本有幸
令和4年8月12日 就任 菱沼義久
今城健晴

以上